

させられている。

■書き換え問題の発覚とNHK報道

実は採択の一〇日ほど前に、現場教員が書いた「調査報告書」が教育委員会によって書き換えを命じられていた事件が発覚した。これは日教組系組合の記者会見で露見し、新聞で大きく報道された。対象教員は意に反して、翌年度、他区に組合の書記長ともども異動させられた。書き換えの中には、評価が正反対にされたものもあったのである。こうまでして採択の体裁を整えたかというわけか。NHKは十月二十日の「クローズアップ

プ現代」で、現場教員の報告内容と採択結果を検証した番組を報道したが、「つくる会」教科書については現場教員の評価は最低だった、それでも杉並区は採択した事実を、グラフで如実に示してくれた。

■現在の状況

その後杉並では有志が愛媛、栃木と連携して裁判闘争に入り、現在は住民訴訟も提訴している。

次の採択は三年後である。山田区長が再選されれば、再び採択の公算が大きい。しかも公正取引委員会は教科書の特殊指

定を外した（新聞に関しては阻止出来たが）ため、営業攻勢も激しくなると予想される。「つくる会」から分裂した八木秀次氏は安倍政権のブレーンとして活躍中であり、権限を握る文部科学省の動向も気が抜けない。私たちの闘いは終わらない。

（おくやま・たえこ 杉並区議会議員）

